



第68回 昭島市新春駅伝競走大会 感想

初めての新春駅伝

小林 ももか
(多摩辺中2年)

新春駅伝大会は、新型コロナウイルス感染症の影響により、3年ぶりの開催でした。その駅伝大会に私が初めて出場し、学べたことは個人種目とは違い、「ひとつのチーム」としての「一体感」が得られたことです。私たち、陸上競技部の部員の中にも得意な競技もあれば、あまり得意ではない競技もあります。新春駅伝大会は一人2.2キロメートルを走ります。今回、走った人の中にも中長距離があまり得意ではない人がいたと思いますが、中長距離が得意な人も、苦手な人も互いに協力し合い、励まし合って練習をすることができました。また、個人やチームで目標を立て、その目標に向かって最後まで頑張ることができました。自分のタスキを次の人に託すという、個人競技では得られない「一体感」が得られたことは、チームにとって貴重な経験となりました。そして結果は、男子Aチームが準優勝をし、Bチームは15位、Cチームは13位、女子は5位でした。

今回自己ベストを出せた人も、出せなかった人も、新春駅伝大会に出場した人も、しなかった人も、最後まで協力し合い、笑い合って楽しく終わることができてよかったです。

私達2年生は、もう3年生になってしまいますが、来年度も部活動のみんなでお互いを支え合える、いい部にしていきたいです。最後に応援して



くださった皆様、ありがとうございました。

新春駅伝をとおして

小池 奏史
(清泉中2年)

僕は新春駅伝をとおして、様々なことを学びました。

一つは仲間と一緒にたたかうことの楽しさです。陸上競技は個人で競うことが多いため、なかなかチームで出ることがありません。だから、今回駅伝で一位をとる！という目標に向けてみんなでキツイ練習をこなしたり、当日もアップのときからみんなで声をかけあって緊張をほぐしたりなど、普段ではあまりできないことができて本当によかったです。僕も走っているとき、「みんなが襷を待ってる」ということを考えると自然と心がおちついて、個人でやるときより、ずっと気持ちよく走れました。仲間が走っているときも、姿が見えると、とても安心して、自分が走っているときよりも熱くなってしまう。順位はあまりよくなかったけれど、仲間と走る楽しさを改めて実感しました。

二つ目は声援のすごさです。いつもの大会だと、そもそも競技場内に親は入れず観戦さえできなかつたり、選手たちは観れたとしても、声援でなく拍手じゃないとダメだったりだけれど、新春駅伝では沿道にたくさんの方が応援しに来ていて、走っているときは自分の応援している学校でなくても、関係なく「頑張れ！！」というあたたかい声援を送ってくれ、とても走りやすかったです。知らない人とはいえ、声援をもらおうと、とても元気がでて声援はこんなにもスゴイものなのだと感じました。

僕たちは結果はあまりいいと言えるものではなかったけれど、それまでに積んだ練習や仲間同士の信頼という結果以上のものを得られてとてもよかったです。



第69回 昭島市はたちのつどい ~20 celebration~



今年度より「成人式」から「はたちのつどい~20 celebration~」に名称を変更し、1月9日(成人の日)にフォレスト・イン昭和三館において、当該年度20歳となる青年のお祝いを開催いたしました。来場者は757名(対象者1,061人)で、参加率は71%でした。



式典は10人の実行委員が企画し、恩師の先生方からいただいたメッセージの動画編集や抽選会等の準備を約半年間にわたり進めてきました。また、当日は受付や司会進行も務めました。

市長挨拶に続き、来賓のご祝辞と実行委員の誓いの言葉で厳かに執り行われ、抽選会では食事券や図書カード等を20名の方にプレゼントし、大変盛り上がりしました。



☆詳しくは、社会教育係へ